



医師。水俣病発見者。西宇和郡三瓶村(現、西予市)出身。愛媛県立宇和島中学校(現、県立宇和島東高等学校)、佐賀高等学校(現、佐賀大学)を経て東京帝国大学(現、東京大学)医学部を卒業した。8年の研究生活後の昭和11(1936)年、日本窒素肥料株式会社(現、チッソ株式会社)に入社、朝鮮半島の阿吾地工場附属病院長を経て、熊本の水俣工場附属病院長になった。昭和16(1941)年、軍医としてビルマ(現、ミャンマー)に出征。昭和22(1947)年に復員し、熊本県南部水俣、芦北の地域医療に力を尽くした。昭和29(1954)年頃、病因不明神経系疾患に気づき「類例のない疾患」と判断、同31(1956)年保健所に届け、水俣病の発見者となった。その後、汚染源内勤務医という困難な条件で原因追究し、会社幹部に実験を禁止されるなどしたが、約千匹のネコ実験により、工場排水中のメチル水銀が原因と突き止

めた。人命尊重と真実把握の情熱を持って研究を進め、昭和37(1962)年、会社を辞職した。昭和45(1970)年、肺がんで入院中、第一次水俣病裁判の臨床尋問に応じ、当時の実験結果を証言した後、69歳で没した。

略歴

明治34(1901)年9月23日	西宇和郡三瓶村津布理に生まれる。
昭和2(1927)年	東京帝国大学医学部を卒業
昭和11(1936)年	日本窒素肥料株式会社に入社 朝鮮の咸鏡北道恩徳郡にある阿吾地工場附属病院長に就いた。
昭和16(1941)年	水俣工場附属病院長に就任。軍医としてビルマに赴任
昭和22(1947)年	復員し、水俣工場附属病院長の職に戻る。
昭和31(1956)年5月1日	「原因不明の中樞神経系疾患発生」と水俣保健所に報告。水俣病発生の公式確認。 実態調査に乗り出す。
昭和32(1957)年5月	水俣工場内部で病因究明の研究を開始
昭和34(1959)年10月	アセトアルデヒド製造工程廃液を投与した「ネコ400号」が水俣病様症状で発症原因は工場排水中のメチル水銀と確信し会社幹部に報告するが、実験続行を禁止される。
昭和37(1962)年	追試実験に成功したが公表されず。会社を辞め、愛媛県に帰郷
昭和45(1970)年	肺がんで入院
7月4日	水俣病裁判の臨床尋問を受け、隠蔽されていたネコ400号実験などの事実を証言
10月13日	肺がんのため69歳で永眠

(写真提供：岡淑子氏)

〈関連図書〉

- ・細川一『今だからいう水俣病の真実』 文藝春秋 1968年
- ・有馬澄雄編『水俣病：20年の研究と今日の課題』 青林舎 1979年
- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめの人－近代を拓いた101人－』 愛媛新聞社 2002年
- ・水俣市立水俣病資料館『水俣病－その歴史と教訓－2007』 水俣市企画課 2008年

〈ゆかりのある場所〉…(P271, 29~30)

〈関連施設〉…水俣市立水俣病資料館

〒867-0055 熊本県水俣市明神町53番地 TEL: 0966-62-2621

水俣病歴史考証館

〒867-0034 熊本県水俣市袋34番地 水俣病センター相思社 TEL: 0966-63-5800